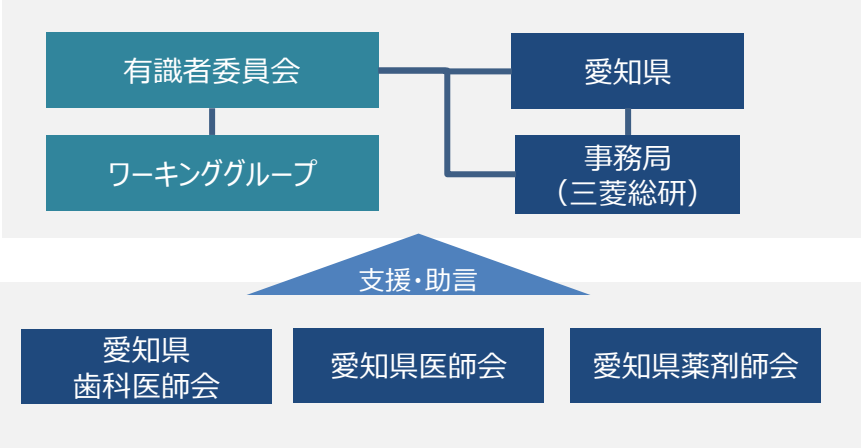


1. 本事業の背景・目的

- 歯周病は糖尿病の合併症の1つであり、また、糖尿病は歯周病の2大危険因子の1つであることが知られている。両者は密接に関連しており、歯周病をコントロールすることで、糖尿病のコントロール状態が改善する可能性が示唆されている。
- 以上のことから、医歯薬が連携し、糖尿病患者の歯周病リスクを低減することは、糖尿病重症化予防の観点から重要である。そこで、本事業では、愛知県の国保被保険者を対象として、医歯薬連携による糖尿病重症化予防のためのプログラムを開発し、その実行可能性と有用性を検証することを目的とした。

2. 事業内容

【実施体制】



○有識者委員会メンバー

役職	氏名	所属
委員長	内堀 典保	一般社団法人愛知県歯科医師会 会長
委員	井出 博生	東京大学未来ビジョン研究センターデータヘルス研究ユニット 特任准教授
	大島 秀康	一般社団法人愛知県薬剤師会 常務理事
	大谷 智	愛知県保健医療局健康医務部 国民健康保険課長
	加藤 定夫	愛知県国民健康保険団体連合会 総務部保健事業課長
	河村 英徳	公益社団法人愛知県医師会 理事
	梶村 豊彦	一般社団法人愛知県歯科医師会 副会長
	三谷 章雄	愛知学院大学歯学部 主任教授

【実施項目】

- (1) 有識者委員会及びワーキンググループの設置
糖尿病重症化予防、歯周病予防、データヘルス等の有識者8名からなる委員会を設置した。また、有識者委員会の下に、プログラムの検討を行うためのワーキンググループを設置した。
- (2) ワークショップの開催
医歯薬連携による糖尿病重症化予防プログラムに参画する医師・歯科医師・薬剤師によるワークショップ開催し、プログラム実施上のポイント・留意点を整理した。
- (3) 先行事例調査の実施
プログラムを検討する際の参考情報として、他自治体等における糖尿病予防に関する医歯薬連携の先行事例を調査した。
- (4) 医歯薬連携による糖尿病重症化予防プログラムの開発
医歯薬間の情報共有・情報提供のためのツールを開発した。また、プログラムの評価項目・評価方法、自治体の保健事業との連携方法、及びツールの周知方法・提供方法の検討を行った。
- (5) 医歯薬連携による糖尿病重症化予防プログラムの試行
プログラムの実行可能性を検証するため、東海市において試行的にプログラムを実施した。プログラムに参加した医師、歯科医師、薬剤師等にアンケート及びヒアリングを実施し、プログラム実施上の課題やポイントを整理した。
- (6) 事務局の設置
本事業の企画、運営、進捗管理、及び成果のとりまとめを担当する事務局を設置した。
- (7) 報告書のとりまとめ

3. 結果

【ワークショップの開催】

- 医歯薬連携の重要性及び目標の共有、プログラムの実施上のポイント・留意点の抽出を行うことを目的に、ワークショップを開催。
- ワークショップには、愛知県医師会、愛知県歯科医師会、愛知県薬剤師会から推薦された医師、歯科医師、薬剤師計12名が参加。

	開催日時	プログラム
第1回	2020 年 11月25日 14:15～ 16:15	1. 事業の意義、狙いについて 2. ワークショップの趣旨及び流れについて 3. 講演「医歯薬連携の重要性について」 にしだわたる糖尿病内科 西田 亘院長 4. グループワーク「地域における糖尿病重症化予防のための取組みについて」 5. グループワークの結果報告 6. まとめ
第2回	2020 年 12月16日 14:00～ 16:00 (オンライン開催)	1. 前回の振り返り 2. 他自治体における医歯薬連携事例の紹介 3. 医歯薬連携による糖尿病重症化予防プログラム(案) について 4. グループワーク「プログラムの実施上のポイント・留意点の抽出」 5. グループワークの結果報告 6. まとめ

○ワークショップの様子



<第1回>



<第2回（オンライン）>

【先行事例調査】

- 糖尿病重症化予防モデルにおける医歯薬連携プログラムを開発する際の参考情報を収集するために、他自治体の医歯薬連携または医科歯科連携に関する先行事例を調査。
- 調査方法は、デスクトップ調査及びヒアリング調査により実施。

○ヒアリング対象自治体

	選定理由
東京都福祉保健局 医療政策部 医療政策課 地域医療対策担当	○都市型の医療連携施策が医歯薬連携プログラム運用の観点から参考となる ✓ 糖尿病医療連携圏域別検討会が必須と選択事項の施策を定め、各圏域で取り組みを行う ✓ 東京都医療機関案内サービス「ひまわり」を作成
滋賀県健康医療福祉部 医療保険課	○研修会や検討会の開催が医歯薬連携プログラム普及の観点から参考となる ✓ 「糖尿病診療の進歩と歯周病管理」等がテーマの研修会の開催 ✓ 多職種連携のための検討会の実施
岡山県保険福祉部 健康推進課	○クラウドシステムを使ったツール普及が医歯薬連携プログラム普及の観点から参考となる ✓ 医科歯科連携の普及法が多様 例) 糖尿病教育資材共有システム (SODET)
高知県健康政策部 健康長寿政策課	○歯科連携を既存の医療連携の中に組みこむ際の課題感をもっているため、医歯薬連携プログラム作成の観点から参考となる ✓ かかりつけ医と専門医との医療連携を構築 ✓ 令和元年度、歯科医師会の役割をプログラムに追記

3. 結果

【医歯薬連携プログラムの検証】

- 東海市での試行（2/1～2/28）に参加した20機関の医師・歯科医師・薬剤師にアンケートを実施。
- また、アンケートに加え、医師、歯科医師、薬剤師各2名対してヒアリングを行い、次年度以降のプログラム改善に向けて、プログラム実施上の課題やポイントを聴取した。

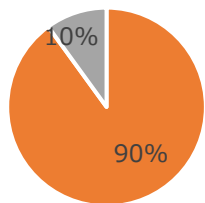
○各機関におけるリーフレット等配布数・受診勧奨数

	医科 N=6		歯科 N=7		調剤薬局 N=7	
	平均値	合計	平均値	合計	平均値	合計
チェックリスト	63.8	383	128.7	901	54.6	382
リーフレット	46.0	276	94.0	658	54.6	382
受診勧奨	18.8	113	25.7	180	35.7	250
情報提供書	14.0	84	8.0	56	—	—
他院からの受診	0.8	5	1.3	9	—	—

- 1か月間の試行期間中、計1,666名がチェックリストに記入し、うち1,316名（79.0%）がリーフレット配布対象となった。
- 実際に受診勧奨の対象となった人は543名と、チェックリストでスクリーニングした患者の41.3%を占めていた。医療機関種別に見ると、医科では40.9%、歯科では27.4%、調剤薬局では65.4%が受診勧奨対象だった。
- 医科、歯科クリニックにおいて情報提供書を提供した患者はそれぞれ84名、56名だった。

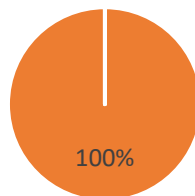
○アンケート結果

チェックリストの内容・分量は適切だったか
(n=20)



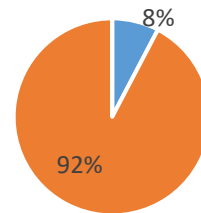
■ 過剰である ■ 適切である ■ 不足している

リーフレットを活用する際、内容・分量等は適切だったか (n=20)



■ 過剰である ■ 適切である ■ 不足している

情報提供書を活用する際、内容・分量等は適切だったか (n=13)



■ 過剰である ■ 適切である ■ 不足している

- 本事業で作成した各種ツール（チェックリスト、リーフレット、情報提供書等）に対する評価は高く、使い勝手も含め、概ね問題はないことが確認できた。
- 本事業で作成したリーフレットは、患者が携帯しやすいよう、糖尿病連携手帳やお薬手帳と同じサイズとした。試行に参加した医師等からも、このサイズの方が患者に読んでもらえるため良いとの意見が得られた。

○ヒアリング結果

- ✓ プログラム運用上の課題として、事務負担の増加、施設内の体制、事前説明・準備期間の不足、患者や近隣医療機関への周知の必要性等が挙げられた。
- ✓ また、試行に参加した機関同士の交流が少なかったとの指摘があった。地域の医歯薬連携を強めることで、医師、歯科医師、薬剤師がより適切な医療機関を紹介することが可能となることから、今後は参加医療機関間の交流を活性化する仕組みも必要と考えられる。

3. 結果

【次年度以降の改善の方向性】

- 先行事例調査、東海市での試行結果、及び有識者委員会での議論を踏まえ、次年度以降のモデル事業に向けたプログラム改訂の方向性を整理。

○プログラム改訂の方向性

■ 実施体制

- ✓ 自治体との連携
- ✓ 学会・アカデミアとの連携

■ ツールの改良

- ✓ 実施要領・各種資料の改良

■ 運用面での工夫

- ✓ 参加機関向けの説明会の実施方法の改良
- ✓ 参加機関の事務負担の軽減
- ✓ 参加機関の意見交換の場の設定（ワークショップ・勉強会の開催、メーリングリスト・SNSの活用）

■ 効果検証方法の見直し

- ✓ 効果検証のためのデータ収集・分析方法の改良

■ プログラムの周知

- ✓ プログラム参加自治体・医療機関以外への周知
- ✓ 市民・県民への啓発

4. まとめ

- ◆ 東海市3師会の協力のもと実施した試行では、医歯薬連携プログラムのフィージビリティ及び効果が確認された。また、次年度以降のプログラム改善に向けた多くの示唆を得た。
- ◆ 試行により明らかとなった課題を解決するため、今後、プログラムの運用方法や各種ツールの改良に取り組んでいく必要がある。
- ◆ 今後、本プログラムを普及させていくためには、①地域の医・歯・薬が互いに顔の見える関係を築けるような仕組みづくり、②コメディカルを巻き込んだプログラムの構築、③市町村の保健事業との連携が重要な鍵となる。

【周知・普及策の検討】

- 本事業で開発した医歯薬連携プログラムを周知・普及するためのポイント、工夫について検討。

	役割
愛知県	● 市町村への周知（アンケートの実施、研修会等の実施） ● 県民の啓発（啓発媒体の作成等） ● 県3師会との連携体制構築（既存会議の活用等） ● 評価指標の検討 ◇ ICTを活用した連携ツールの開発 ◇ サポーター制度の導入 等
愛知県 3師会	● 地区3師会との連携体制構築（会議体の設置等） ● 定期的なワークショップ・勉強会の開催（既存の会議体の活用を含む） ● 専用SNS・メーリングリストの設置 ● 会員への啓発（イベント・HP等の活用、アンケートの実施） ● 診療情報連携共有料の周知・情報提供書等のフォーマット整備 ● 関連学会での成果発表 等
国保連	● 市町村職員への周知・支援（研修会等） ✓ 医歯薬間の連携実績のモニタリング・公表（KDBを活用した効果検証）
市町村	● 市民の啓発（啓発媒体の作成等） ● 地区3師会との連携体制の構築（既存会議の活用等） ◇ 自治体保健事業（糖尿病重症化予防事業 等）への組み込み ✓ 介護や地域包括に関する事業への組み込み 等
地区3師会	● 定期的なワークショップ・勉強会の開催（既存の会議体の活用を含む） ● 専用SNS・メーリングリストの設置 ● 会員への啓発（イベント・HP等の活用、アンケートの実施） ● 連携医療機関・薬局リストの作成・周知
学術機関・ 学会	● シンポジウムの開催 ● プログラムの監修・助言、効果検証 ◇ 講習会・単位への関連プログラムの組み込み ✓ 医師・歯科医師・薬剤師の養成 等

凡例： ● 短期 ◇ 中期 ✓ 長期